



お酒の飲み方講演会



SPISチャレンジ制度



ボサノバ研究会地域交流コンサート



キャンパスサミット

大人でも生活していくことは難しいことであろう。学生課では、「何でも相談窓口」を設け、学生がくつろいで話のできるスペースを提供し、必要に応じて「保健室」、「学生相談室」、教務課、進路指導課と学生情報を共有し連携しながら、学生が夢と希望を持って、前向きに学生生活に取り組めるよう支援している。

前向きな姿勢とは自己への挑戦である。学生の夢と希望を実現するための「目白大学SPISチャレンジ制度」を創り、正課外活動における自分への挑戦を資金面からも支

援している。

また、学生の自主性を重んじ、学生の意向を大学運営に反映させるため、学生自身の手による全学生対象の学生総合アンケートを実施している。さらに、キャンパスサミットを定期的に開催し、学長を始めとする教職員と学生の約一〇〇名が一同に集い、キャンパスの健全化・活性化のための意見交換を行っている。

学生支援の現場から

◆目白大学  
育てて送り出す 目白大学の学生生活支援

梅村 静夫  
(目白大学 新宿キャンパス学生課長)

目白大学新宿キャンパスでは、約四〇〇〇名の学生が学んでいる。所謂マンモス大学ではないが、学生個々の顔が見えにくくなってきているのも事実である。学生の生活に最も近い窓口は事務局で、学修支援は教務課、生活支援は学生課、進路支援は進路指導課が担当しており、どちらかと言えば呼び方的にも古い窓口体制かもしれない。しかし、大事なのは窓口の名称ではなく、そこに居る職員が、一人ひとりの学生とどれだけ真剣に、そして学生の目線に立って対応できているかである。窓口担当者に求められる資質の重要さを痛感している。窓口担当者は、愛と情熱に加えイニテーカーとしての知識と技術も身につける必要がある。

学生課では、「育てて送り出す」学生支援の基本を、学生が自ら育とう、羽ばたこうとする前向きな姿勢を涵養す



学生課窓口

大学全入時代にあって、入試の多角化が進み、新入学生の学習意欲、学力、家庭環境、価値観は多様を極めていく。個々の学生が自分の居場所を持てるキャンパスであるために最も必要なのは、それぞれの人的ネットワークの構築に他ならない。自分の存在を感じ、認めてくれる環境がなければ

ることと考え、そのためにハード・ソフト両面から支援環境の整備に努力している。

学生が入学直後に経験するのがフレッシュマンセミナー(学外二泊三日)である。全学規模で行われるこのセミナーは、学長を筆頭に一年次クラス担任教員全員と上級学年のリーダー学生が寝食を共にし、新入生のネットワーク作りを応援する。新入生にとっては経験の少ない、そして少々苦手な団体生活で大学生活のスタートを切るが、この経験がその後の生活に活きてきている。